

# 1 普通会計のバランスシート

現行の予算制度は、単年度の「現金主義・単式簿記」方式による「フロー情報」であるため、これまでに蓄積してきた資産の構成や、将来負担しなければならない負債などの「ストック情報」はわかりにくいものになっています。そこで、企業会計的手法を活用し、財政状況をストック面から明らかにするため、国が示す基準に準拠して、平成10年度決算分からバランスシートを作成しています。

## (1) 試算結果について (詳細については、2頁参照)

資産合計 2兆 1,610億円	負債合計 9,612億円 (資産合計の44.5%)
	正味資産 1兆 1,998億円 (資産合計の55.5%)

資産合計 (2兆1,610億円) の内訳は、  
 建物や土地などの有形固定資産が 1兆9,272億円 (89.2%)  
 うち土地が1兆177億円を占めています。  
 投資、貸付金などの投資等が1,967億円 (9.1%)  
 現金、預金などの流動資産が371億円 (1.7%) となっています。

負債合計 (9,612億円) の内訳は、  
 地方債が8,259億円 (85.9%)  
 物件の購入等にかかる債務負担行為が62億円 (0.7%)  
 職員が全員普通退職したと想定した場合の退職給与引当金が730億円 (7.6%)  
 翌年度の地方債償還予定額の流動負債が561億円 (5.8%) となっています。

正味資産 (1兆1,998億円) の内訳は、  
 国庫支出金が2,360億円 (19.7%)  
 県支出金が243億円 (2.0%)  
 一般財源等が9,395億円 (78.3%) となっています。

## (2) 市民1人あたりのバランスシート (詳細については、3頁参照)

項目	平成17年度 A	平成16年度 B	A-B
資産合計	166万9千円	166万6千円	3千円
負債合計	74万2千円	74万8千円	6千円
正味資産	92万7千円	91万8千円	9千円

平成18年3月31日現在の住民基本台帳人口 (1,294,439人) に拠る。  
 (平成17年3月31日の住民基本台帳人口は、1,280,480人)

市民1人あたりでは、資産合計は前年度比3千円増の166万9千円、負債合計は6千円減の74万2千円、正味資産は9千円増の92万7千円となっています。

川崎市バランスシート(普通会計)  
(平成18年3月31日現在)

(単位:千円)

借 方	貸 方
<b>【資産の部】</b>	<b>【負債の部】</b>
1.有形固定資産	1.固定負債
(1)総務費 <u>104,970,391</u>	(1)地方債 <u>825,891,100</u>
(2)民生費 <u>41,984,477</u>	(2)債務負担行為
(3)衛生費 <u>164,881,628</u>	物件の購入等 <u>6,197,269</u>
(4)労働費 <u>2,489,141</u>	債務負担行為計 <u>6,197,269</u>
(5)農林水産業費 <u>431,021</u>	(3)退職給与引当金 <u>73,047,510</u>
(6)商工費 <u>28,596,920</u>	固定負債合計 <u>905,135,879</u>
(7)土木費 <u>1,180,817,676</u>	2.流動負債
(8)消費費 <u>25,449,735</u>	翌年度償還予定額 <u>56,093,798</u>
(9)教育費 <u>377,619,303</u>	流動負債合計 <u>56,093,798</u>
(10)その他 <u>8,772</u>	<b>負債合計</b> <u>961,229,677</u>
計 <u>1,927,249,064</u>	<b>【正味資産の部】</b>
(うち土地 <u>1,017,674,551</u> )	1.国庫支出金 <u>235,972,729</u>
有形固定資産合計 <u>1,927,249,064</u>	2.県支出金 <u>24,353,870</u>
2.投資等	3.一般財源等 <u>939,483,964</u>
(1)投資及び出資金 <u>124,794,314</u>	<b>正味資産合計</b> <u>1,199,810,563</u>
(2)貸付金 <u>37,343,463</u>	<b>負債・正味資産合計</b> <u>2,161,040,240</u>
(3)基金	
特定目的基金 <u>25,052,669</u>	
土地開発基金 <u>9,532,905</u>	
基金計 <u>34,585,574</u>	
投資等合計 <u>196,723,351</u>	
3.流動資産	
(1)現金・預金	
財政調整基金 <u>1,819,538</u>	
減債基金 <u>13,548,940</u>	
歳計現金 <u>6,839,923</u>	
現金・預金計 <u>22,208,401</u>	
(2)未収金	
地方税 <u>10,560,419</u>	
その他 <u>4,299,005</u>	
未収金計 <u>14,859,424</u>	
流動資産合計 <u>37,067,825</u>	
<b>資産合計</b> <u>2,161,040,240</u>	

債務負担行為に関する情報

物件の購入等に係るもの	<u>72,589,761</u> 千円
債務保証及び損失補償に係るもの	<u>4,075,692,795</u> 千円
利子補給等に係るもの	<u>0</u> 千円

(注)退職給与引当金の算定は、平均値により算出した。

## 市民 1人あたりのバランスシート

(単位 :千円)

借 方			貸 方		
【資産の部】	H17	H16	【負債の部】	H17	H16
<b>1 有形固定資産</b>			<b>1 固定負債</b>		
(1) 総務費	81	84	(1) 地方債	638	649
(2) 民生費	33	33	(2) 債務負担行為 物件の購入等	5	5
(3) 衛生費	127	129	(3) 退職給与引当金	56	57
(4) 労働費	2	2	<b>固定負債合計</b>	699	711
(5) 農林水産業費	0	0	<b>2 流動負債</b>		
(6) 商工費	22	23	翌年度償還予定額	43	37
(7) 土木費	912	909	<b>流動負債合計</b>	43	37
(8) 消防費	20	20	<b>負債合計</b>	742	748
(9) 教育費	292	289	<b>【正味資産の部】</b>		
(10) その他	0	0			
計	1,489	1,489	<b>1 国庫支出金</b>	182	180
(うち土地)	(786)	(779)	<b>2 県支出金</b>	19	19
<b>有形固定資産合計</b>	1,489	1,489	<b>3 一般財源等</b>	726	719
<b>2 投資等</b>			<b>正味資産合計</b>	927	918
(1) 投資及び出資金	96	95	<b>負債・正味資産合計</b>		
(2) 貸付金	29	30			
(3) 基金			1,669	1,666	1,666
特定目的基金	19	18			
土地開発基金	8	8			
基金計	27	26			
<b>投資等合計</b>	152	151			
<b>3 流動資産</b>					
(1) 現金・預金					
財政調整基金	1	1			
減債基金	11	8			
歳計現金	5	4			
現金・預金計	17	13			
(2) 未収金					
地方税	8	10			
その他	3	3			
未収金計	11	13			
<b>流動資産合計</b>	28	26			
<b>資産合計</b>	1,669	1,666			

## 参考]

### 1 前年度の試算結果との比較

資産合計は、前年度比227億円の増、負債合計は35億円の増、正味資産は242億円の増となっています。

また、資産合計に占める正味資産の割合は、55.5% (前年度は55.1%) となっています。

項 目	平成17年度 A	平成16年度 B	A-B
資 産 合 計	2兆1,610 億円	2兆1,333 億円	277億円
有形固定資産	1兆 9,272 億円	1兆 9,067 億円	205億円
投 資 等	1,967 億円	1,929 億円	38億円
流 動 資 産	371 億円	337 億円	34億円
負 債 合 計	9,612 億円 (資産合計に占める割合 44.5%)	9,577 億円 (資産合計に占める割合 44.9%)	35億円
固 定 負 債	9,051 億円	9,102 億円	51億円
流 動 負 債	561 億円	475 億円	86億円
正 味 資 産	1兆 1,998 億円 (資産合計に占める割合 55.5%)	1兆 1,756 億円 (資産合計に占める割合 55.1%)	242億円
国庫支出金	2,360 億円	2,299 億円	61億円
県支出金	243 億円	248 億円	5億円
一 般 財 源 等	9,395 億円	9,209 億円	186億円

### 2 有形固定資産の形成における世代間負担率

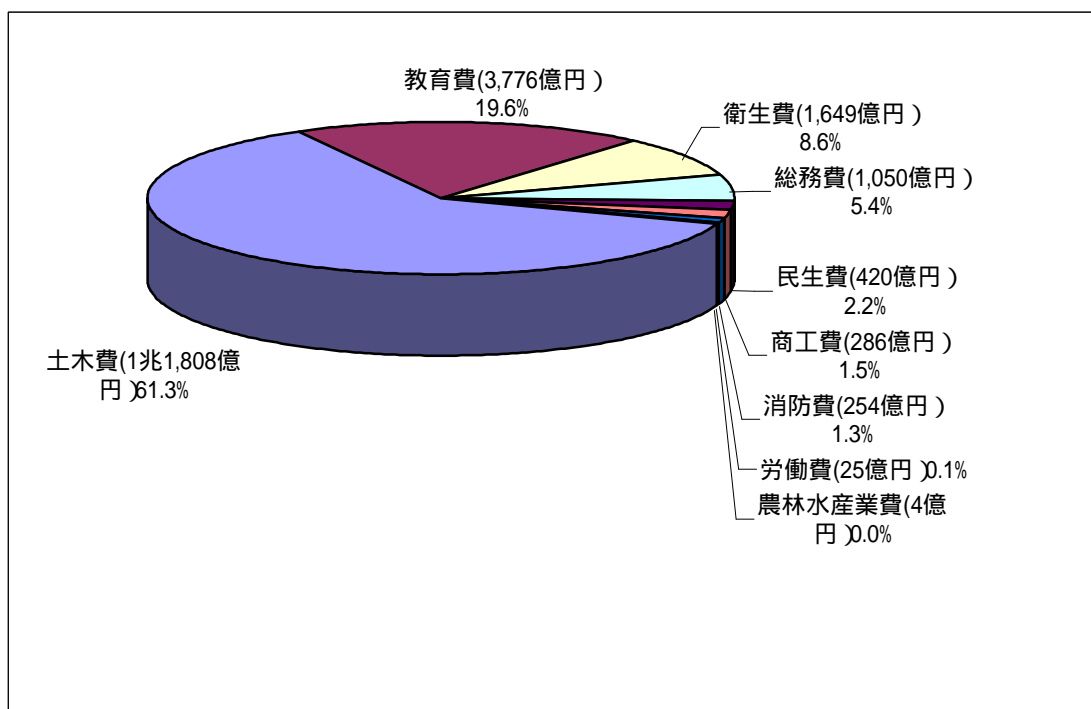
本市がこれまでに蓄積してきた有形固定資産に対する正味資産の割合をみることで、これまでの世代によって既に負担された割合がわかります。

平成17年度の割合は62.3%と、前年度と比較して0.6ポイントの増となっています。

	平成17年度	平成16年度
有形固定資産 A	1兆 9,272 億円	1兆 9,067 億円
正味資産 B	1兆 1,998 億円	1兆 1,756 億円
B ÷ A	62.3%	61.7%

### 3 普通会計上の区分別の有形固定資産

有形固定資産(1兆9,272億円)を普通会計上の区分別に見ると、次のようになります。



【説明】

- 土木費 橋りょう、道路、公園、街路及び住宅の整備、市街地再開発、区画整理など
- 教育費 学校(小・中・高)、社会教育施設、短期大学、体育館・スポーツセンターの整備など
- 衛生費 ゴミ焼却施設、リサイクル施設、保健衛生施設の整備など
- 総務費 本庁舎、区役所庁舎、市民利用施設の整備など
- 民生費 保育園の社会福祉施設、高齢者福祉施設の整備など

道路や公園等の整備を行う土木費が全体の約6割、次いで、学校やスポーツ施設等の整備を行う教育費が約2割を占めています。

### 4 行政目的別の有形固定資産

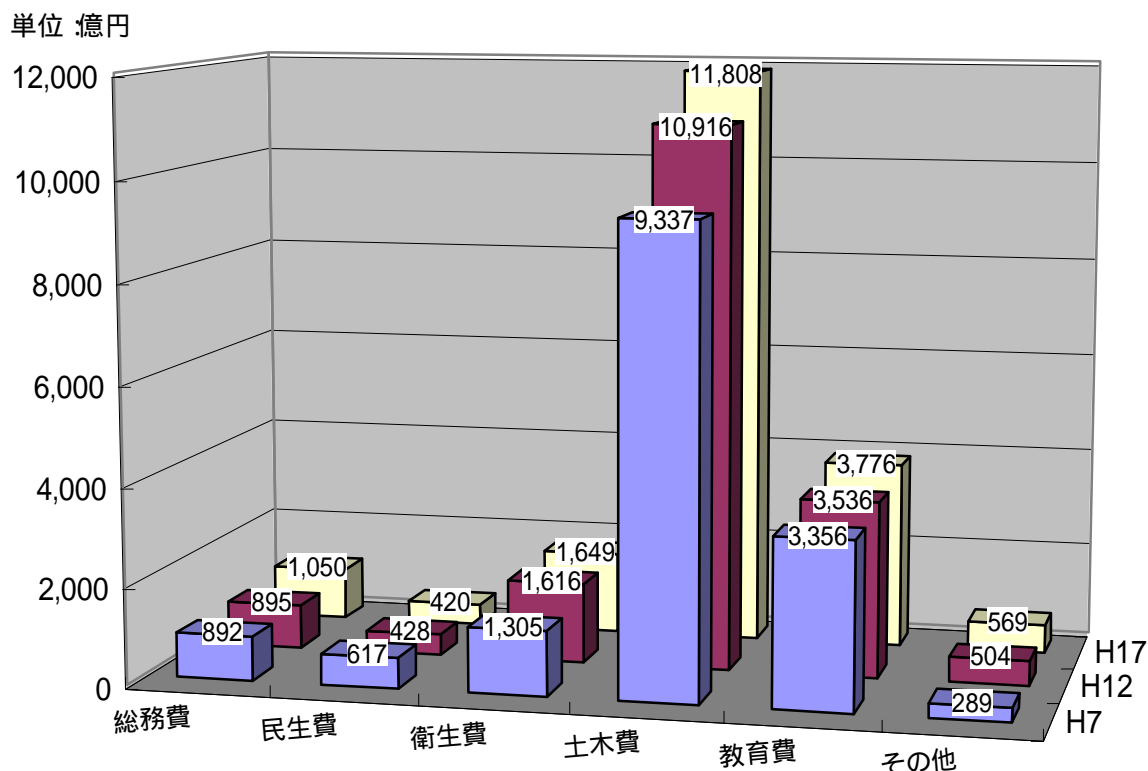
有形固定資産を川崎市の行政目的別に見ると、次のようになります。

(単位:億円・%)

行政目的	平成17年度 A		平成16年度 B		A-B (前年度比較)
	金額	構成比	金額	構成比	
保健・福祉・医療の充実	805	4.2	807	4.2	2
環境・リサイクル	2,990	15.5	2,922	15.3	68
地域経済の発展	290	1.5	296	1.6	6
道路・河川等の整備・安全なまちづくり	5,943	30.8	5,938	31.1	5
港湾の整備	1,525	7.9	1,526	8.0	1
計画的なまちづくり	2,908	15.1	2,812	14.8	96
学校教育・生涯学習	3,737	19.4	3,660	19.2	77
行政運営	527	2.7	540	2.8	13
共生と参加のまちづくり	547	2.9	566	3.0	19

## 5 有形固定資産の経年比較 (H17年度、H12年度、H7年度との比較)

### (1) 総額の比較



(単位：億円)

区分	平成7年度 A	平成12年度 B	平成17年度 C	増減額 B-A	増減額 C-B
総務費	892	895	1,050	3	155
民生費	617	428	420	189	8
衛生費	1,305	1,616	1,649	311	33
土木費	9,337	10,916	11,808	1,579	892
教育費	3,356	3,536	3,776	180	240
その他	289	504	569	215	65
計	15,796	17,895	19,272	2,099	1,377

平成7年度から平成12年度までの5年間の増加額は2,099億円であるのに対して、平成12年度から平成17年度までの5年間の増加額は1,377億円と、増加額が減少しています。これは、投資的経費が減少してきたためです。

なお、民生費において平成7年度と平成12年度を比較して減少しているのは、平成12年度に介護保険事業特別会計が設置されたことに伴い、有形固定資産を移行させたことによります。

## ② 構成比の比較

(単位 :%)

区 分	平成7年度 A	平成12年度 B	平成17年度 C	増減 B-A	増減 C-B
総 務 費	5.7	5.0	5.4	0.7	0.4
民 生 費	3.9	2.4	2.2	1.5	0.2
衛 生 費	8.3	9.0	8.6	0.7	0.4
土 木 費	59.1	61.0	61.3	1.9	0.3
教 育 費	21.2	19.8	19.6	1.4	0.2
そ の 他	1.8	2.8	2.9	1.0	0.1
計	100.0	100.0	100.0		

10年間の構成比を比較すると、土木費や衛生費の構成比が増加し、民生費は、新規の福祉施設について主に民間による整備を進めているため1.7ポイント低くなり、教育費は平成7年度以前に教育施設の整備が進んでいたことから、1.6ポイント低くなっています。

## 6 土地の保有状況

有形固定資産のうち、土地 (1兆177億円) の保有状況は、次のとおりです。

(単位 億円)

区 分	平成17年度 A	平成16年度 B	A-B
道路橋りょう	976	952	24
街 路	2,475	2,439	36
公 営 住 宅	221	221	0
小 学 校	512	512	0
中 学 校	242	242	0
そ の 他	5,751	5,610	141
計	10,177	9,976	201

街路用地が、供用済み土地の買戻しなどにより36億円の増、その他が川崎駅西口大宮中幸町線公共施設に係る土地などの取得により141億円の増となっています。

## 7 他都市との比較

総務省方式で作成した他の指定都市のバランスシートを比較致しますと、次のとおりです。

比較は、現段階では平成17年度分を公表していない都市もあるため、平成16年度の数値によっています。

### (1) バランスシート総額の比較

(単位：億円)

区 分	川崎市 (H17)	川崎市 (H16)	他都市平均 (H16)	札幌市 (H16)
資 産	21,610	21,333	32,134	32,053
負 債	9,612	9,577	13,331	11,800
正味資産	11,998	11,756	18,803	20,253
負債 / 資産	44.5%	44.9%	41.5%	36.8%

区 分	仙台市 (H16)	千葉市 (H16)	さいたま市 (H16)	横浜市 (H16)
資 産	18,027	13,607	12,967	64,251
負 債	7,809	7,282	3,668	26,043
正味資産	10,218	6,325	9,299	38,208
負債 / 資産	43.3%	53.5%	28.3%	40.5%

区 分	静岡市 (H16)	名古屋市 (H16)	京都市 (H16)	大阪市 (H16)
資 産	10,014	40,525	23,095	78,044
負 債	3,712	18,656	11,188	31,147
正味資産	6,302	21,869	11,907	46,897
負債 / 資産	37.1%	46.0%	48.4%	39.9%

区 分	神戸市 (H16)	広島市 (H16)	北九州市 (H16)	福岡市 (H16)
資 産	46,207	21,425	25,153	32,379
負 債	19,217	9,521	9,058	14,208
正味資産	26,990	11,904	16,095	18,171
負債 / 資産	41.6%	44.4%	36.0%	43.9%

総額での比較をみると、川崎市は資産の額及び正味資産の額で、いずれも多いほうから10番目、負債の額では8番目となっています。

また、負債と資産の割合では、高い方から4番目と上位に位置し、率でも他都市平均を上回っています。



②) 市民一人あたりの比較

(単位:千円)

区 分	川崎市 (H17)	川崎市 (H16)	他都市平均 (H16)	札幌市 (H16)
資 産	1,669	1,666	2,010	1,727
負 債	742	748	836	636
正味資産	927	918	1,174	1,091
負債 / 資産	44.5%	44.9%	41.5%	36.8%

区 分	仙台市 (H16)	千葉市 (H16)	さいたま市 (H16)	横浜市 (H16)
資 産	1,808	1,513	1,214	1,826
負 債	783	810	343	740
正味資産	1,025	703	871	1,086
負債 / 資産	43.3%	53.5%	28.3%	40.5%

区 分	静岡市 (H16)	名古屋市 (H16)	京都市 (H16)	大阪市 (H16)
資 産	1,427	1,902	1,667	3,125
負 債	529	876	808	1,247
正味資産	898	1,026	859	1,878
負債 / 資産	37.1%	46.1%	48.5%	39.9%

区 分	神戸市 (H16)	広島市 (H16)	北九州市 (H16)	福岡市 (H16)
資 産	3,093	1,899	2,539	2,388
負 債	1,286	844	914	1,048
正味資産	1,807	1,055	1,625	1,340
負債 / 資産	41.6%	44.4%	36.0%	43.9%

市民 1人あたりの比較でみると、川崎市は資産の額では多いほうから11番目、負債の額及び正味資産の額では10番目となっています。